幸福会ヤマギシ会 けんさん
THE KENSAN
2026年9月号
特講特集

発行　幸福会ヤマギシ会全国事務局　〒194-0035　東京都町田市忠生 2-29-18　ヤマギシズム東京案内所
tel:042-851-9180 fax:042-851-9181 email:tokyo@koufukukai.com

『2026年9月特講』に参加して

様々な人の考えや体験に触れ 自分をじっくり見つめ続けた３泊４日

9月20日～23日、３泊４日の「特講」を、東京都町田市の多摩実顕地を会場に開催。
台風の影響などもあり参加者は６名。
寝食を共にしながらの研鑽生活を体験し、それぞれが互いに見合いながら仲良しが深まり、
自分自身を見つめながらの研鑽の大切さを感じたようです。
寄せられた参加者の感想を紹介します。

東京都から参加のH.Kさん（男・20歳）

今回特講を受けて、自分の考え方についての理解が進んだと感じています。特講を受けて自分や、自分以外の様々な人の考えや体験に触れることができ、特講が終わった今だからこそ、「今までの考え方は固定観念にとらわれており、視野が狭かったのではないか？」と言えるようになったと感じます。

また、特講が終わり、少し時間が経った今だからこそ、日頃から研鑽をする重要性を感じています。特講中だけではなく、日常生活を送る中で「なぜこのように考えるのか」を考えることを大切にしていきたいと思いました。

北海道から参加のY.Hさん（男・45歳）

新規事業開業に向けて、勉強の日々を過ごしています。

特講は、これからキャリアコンサルタントの試験があり、人の心の中にある、本心や、自分で自分を考えること、他人の悩みなどをしっかり受け止めることなどで、考え方が近い部分があるように感じています。

今までも勉強はしてましたが、表面の部分ではなく、より深い部位まで、考えることができるきっかけを、考えられるようになった感じがしています。

まずは自分の中にある、色々な思いと向き合うことを始めたいと考えています。



３日目の朝だけ晴れて、外でみんなでラジオ体操をしました



石川県から参加の M.M さん（女・74 歳）

特講はある程度、周囲から耳に入っていたので想像もあり、不安な気持ちを持ちながら受講しました。

「腹の立たない自分」「もの事を深くほりさげる」「それは誰のもの」など訳がわからないなり、混乱しながら意見をかわしました。年齢層が多岐に渡っていたことで様々なことがらが、考える一因となりました。

また、特講を終えて、現実社会に戻ってから、今はスッキリするどころかモヤモヤ感があり、少々、自分の頭で論理的に考える力がなく、脳や心が疲労を感じています。しばらくして疲労感が抜けてくれれば、本当の自分自身を見つめていけるのではないかと感じてます。

三重県から参加の O.Y さん（女・18 歳）



今回、私は町田市で行われた特講に参加しました。特講に参加したことで、自分自身の考え方が変わり、これからやりたいことや目標が明確になりました。

3 泊 4 日の特講ではスマートフォンや時計がなく、普段携帯を使わない時間の方が短い私にとっては、まずスマートフォンや SNS から離れることが新鮮でした。外部の情報がないことで、より集中して研鑽に参加することができました。

研鑽会の中での問いに対して、戸惑いや考えることを諦めたくなる場面が何回もありました。しかし、母親や特講の前に送り出しをして下さった人の言葉を思い出し、考えることを諦めなかったことで、自分の本当の気持ちに気づくことができました。また、周りの特講生の意見や考えを聞くことで、新たな気づきや物事に対する考え方の方法が増えました。自分だけでは気づくことができなかったと思います。



特講が終わった後も、事実はこうである。そして私はどう思ったかを考えることで冷静になることができたり、主観的だったことが客観的に物事を考えることができるようになりました。特講に参加して新しく得た考え方をもとに、更にこれからも研鑽をしていきたいと思いました。



友人を 2 月特講と 9 月特講に送り出した T.Y さん（学生）の感想

「共に成長し続けられる友として」

私が多摩実顕地で開催された 2 月と今回の 9 月特講へ送り出した 2 人は、中学時代や大学で出会った友人です。

元々は普段一緒に遊ぶだけの関係でしたが、私からボランティアや「若者研」「楽園村スタッフ」に誘い、共に活動するようになりました。

特講は、私自身が参加した際、純粋に楽しく、非常に大きな学びを得られたため、「行きたくなったら行ってみて」と素直な感想を彼らに伝えていました。

その言葉や、他の参加者の話を聞いたことが後押しとなり、彼らも参加を決めてくれたのだと思います。

無事に特講を終えた彼らとこれからやりたいことは、何か特別なイベントを起こすというよりも、これからの人生や将来の悩みを本音で語り合える時間を日常の中に作ることです。

例えば、一緒にご飯を作って食卓を囲みながら、お互いの価値観を深掘りするような「問い」を投げ合い、共に成長し続けられる関係性を楽しんでいきたいと思っています。